

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	学習指導の充実…「確かな学力の定着」への取り組み
目標（評価規準）		指導と評価の一体化を推進することにより確かな学力の向上に取り組む。
重点に係る現状 設定理由		教員の学力観が、ともすれば「知識・技能」の観点に偏っている傾向がみられる。児童に育てたい資質能力を明確にし、指導と評価の一体化を図るといった「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るとともに、ICT機器を積極的に活用することにより、確かな学力の向上につなげていく。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、ほとんどの教員がB評価を選択している。昨年はC評価も数名見られたが、今年度は誰も選択していない。「主体的・対話的で深い学び」について真摯に学んだ結果、少しずつであるが授業改善につながっていると判断している。また、タブレット学習が急速に進展し、指導と評価の一体に寄与していると考えていると思われる。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、基礎・基本充実の取組に関する設問においてA Bの計が9割を越え、今年度は96%（A評定は71%）に達した。「確かな学力」の土台となる基礎・基本充実に関して、安定して高評価をいただいている。
自己評価結果 (見解と改善方策)	指導と評価の一体化に関して適宜情報発信し、教職員の意識改革を図るとともに、年間を通して日常的に管理職が授業を参観し指導助言に努めてきた。また、全教員が研究授業を行ったり、講師や指導主事を招聘しての研究会を行ったりするなど、研究推進委員会を中心に組織的に授業改善を図ることができた。また、昨年度コロナ禍で開催できなかった公開研修会を三浦市内他校の教員を招いて開催することができた。多様な意見をうかがうことで、研究の質を高めることに寄与した。さらに、タブレットが全児童に配られたことにより、教職員の意識が高まり、積極的に活用していこうとする機運が高まった。活用方法を共有する場を意図的に設定し、教職員のスキルアップを図ることができた。今後は、個別最適化の学びと協働的な学びの両立に、どのようにICTを活用していくのか、さらに研鑽していく必要がある。
学校関係者評価結果	いろいろな機会をとらえて、タブレットを中心としたICT教育が推進されていることがわかった。児童の吸収力が高く、すぐに使いこなしてしまうのが素晴らしい。教職員もさらに研鑽に励み、充実した教育活動を展開されることを期待する。また、きれいに文字を書くなど基礎基本の充実も図られたい。
最終改善方策	引き続き、児童に育てたい資質能力を明確にした上で指導と評価の一体化を推進し、授業改善を図る。そのための方策として、全教員が公開授業を実施したり、外部講師の活用を継続したりすることで、教師個々の力量を高める。また、他校に向けて公開研修会を開催し知見を得る機会とする。さらに、成果があがっているICT教育を深化させ、個別最適化の学びと協働的な学びの両立を図っていく。

本年度の重点	2	学年・学級経営の充実…「豊かな心の育成」への取り組み
目標（評価規準）	人とのかかわりの中で、人権尊重の精神を涵養するとともに豊かな道徳性を	
重点に係る現状 設定理由	他者とのコミュニケーション不足により誤解や行き違いが生まれ、健全な関係性を保つことが苦手な児童がみられる。人とのかかわりの中で、「自分の大切さとともに、相手の大切さを認められる」人権感覚を養うことにより、思いやりをもって他者と接することができる豊かな心の育成を図る。また、教育活動全体を通してコミュニケーション能力の向上に努め、他者と協働することの価値に気づかせる。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	A～Dの4段階で評定したアンケートでは、ABの計が100%となったが、B評価が大半を占めた。コロナ禍が収まらず、陽性者や濃厚接触者が身近な問題となる中で、より一層の人権感覚が必要だという認識は一致している。さらに、いじめの未然防止や早期対応について意識が高まってきているので、自身でA評価を選択できるように、より実践的な指導が求められる。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、児童指導の設問においてABの計が9割を越え、今年度は96%（A評定は68%）に達した。また、各学級の児童の様子に関して「ルールを守り協力している」99%（A評定は75%）「楽しそうに登校している」が94%（A評定は72%）という結果だった。おおむね高評価だが、一部C・D評価も顕在しているので、謙虚に受け止める必要がある。
自己評価結果 (見解と改善方策)	今年度、子どもたちに育てたい資質能力として「コミュニケーション能力」を掲げ、すべての教育活動において重点として位置づけた。仲間と協働して何かを成し遂げる経験を積み重ねることで自己肯定感を高め、他者を尊重する思いやりの心を育むことに尽力した。学校行事や年度末の学習発表会などにおいて仲間と協働する喜びを味わい、成功体験の中で自尊感情が高まっている姿が見られた。また、コロナ禍にあり、人権教育の充実が求められる中で、教職員がより強く意識して取り組んだことで一定の成果を上げたと考えている。
学校関係者評価結果	今年度も、コロナ不安からの人権侵害などが心配されたが、学校が一丸となって人権教育に取り組まれているのはありがたい。人との関係づくりでは挨拶が欠かせない。子どもたちは、良く挨拶してくれる。さらに、しっかり挨拶のできる子を引き続き育ててもらいたい。
最終改善方策	コミュニケーション能力を発揮し仲間と協働して課題解決するなど、自己肯定感を高める活動を継続して推進する。また、「思いやり」を道徳教育の重点とし教育活動全体を通して育成を図る。チームによる児童指導を充実させるために支援担当や担任以外の教師を含めた全職員で協力体制を構築する。小規模校ならではの強みを生かし、全教職員で全校一人ひとりを育てるという意識を大切にする。心の悩みや家庭の課題に対してはSCやSSWと連携し必要に応じて医療や福祉、警察といった外部機関とも連携する。いじめ未然防止に努め、人権感覚を大切にした児童指導を充実させる。

本年度の重点	3	地域・家庭・学校との連携…「地域教育力の活用」への取り組み
目標（評価基準）	「地域教育力」の活用を図り、豊かな教育活動を推進する。	
重点に係る現状 設定理由	特に海洋教育において、地域の環境資源を生かした豊かな教育活動が展開されているが、体験活動が中心となっている。今年度は、豊かな体験活動に加え、児童が主体的・探究的・協働的に課題解決に取り組む教育活動を推進していく。また、学校の状況や特色ある教育活動のねらいを積極的に情報提供し、家庭・地域・学校がともに連携して子どもたちを育む風土を醸成していく。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	A～Dの4段階で評定したアンケートで、昨年度はA評価がなし、半数がC評価であったが、今年度はコロナ禍にありながらも、およそ8割の教員がA B評価を選択している。厳しい環境下であっても、感染予防に最大限配慮しながら、できることを積み上げてきた成果ととらえている。
各アンケート等の結果	保護者アンケートでは、家庭との連絡・相談の設問においてA Bの計が9割を越え、今年度は96%（A評定は65%）であった。また、海洋教育など学校の特色をいかした活動を問う設問では、99%（A評定は89%）という非常に高い評価をいただいた。自由記述欄にも地域を生かした教育や体験活動が素晴らしいとの声が多く寄せられた。
自己評価結果 (見解と改善方策)	本校の特色である海洋教育と野菜の栽培活動については、地域の協力を得ながら充実した活動を行うことができた。さらに今年度は、三浦市海洋教育推進事業を委託し、今までできなかった体験活動を数多く実施することができた。地引網体験や釣り堀体験、漁船乗船体験などは、地域の自然の素晴らしいさを味わうだけでなく、そこで働く人々の生きざまにも触れられる貴重な体験となった。これらの体験活動を探究的な学びとつなげられるようにさらに工夫していく必要がある。また、運動会や学習発表会など子どもたちの成長を実感していただく場を、感染予防対策を講じながら提供できたのは、連携を図るうえで効果的だった。
学校関係者評価結果	コロナ禍でも、いろいろと工夫して多くの学校行事が開催できたことは素晴らしい。特に、本校ならではの特色ある海洋教育が充実して展開されていたことをうれしく思う。次年度も、机上の学習にとどまらずできるだけ多くの体験学習等を実施してほしい。
最終改善方策	地域の教育資源を生かした教育活動を継続して推進していく。体験学習にとどまることなく、探究型の学習を追求し積極的に地域に出てそこで生活する人々と交流を深める。個々の職員のコミュニケーション能力を向上させ、授業づくり・児童指導などに地域の力を生かせるよう努める。経験豊かなボランティア等の力を得ながら指導を充実させる。SSWやSCなどの専門職との協力関係を継続する。感染症予防対策など危機に際しても地域・関係機関と連携し児童の安全を守り、課題を解決していく。